

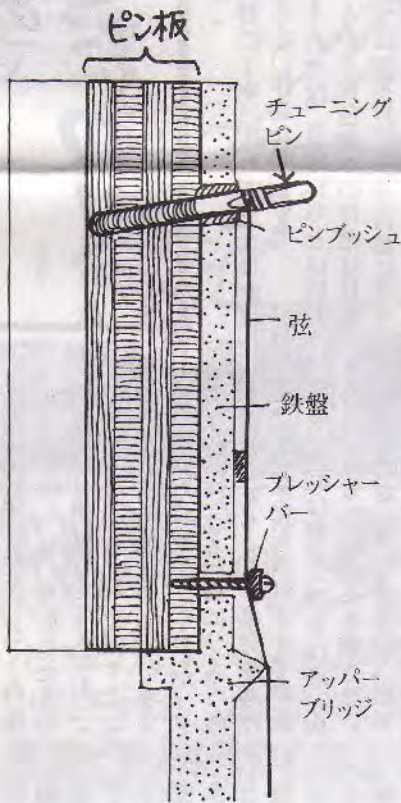
SEIBU・PIANO TIMES

2002

No. 11



<ピンとピン板の構造>



調律を さまたげる

チューニングピンのトラブル

ズルピン

「ズルピン」という現象をご存じだろうか？ 止まるべきポイントで止まることのできないゆるんだピンのことである。原因は「ピン板のヤセ」「ピン板の材質不良」「製作上の穴開け工程が悪かった」の3点が主で、穴についてはサイズの問題はもちろんのことだが、穴を開けるドリルの使用スピードや刃の切れ味が影響してしまうことがある。

「ズルピン」が起こると「音がすぐ狂う」「音が合わない」という症状がでる。ピンがきちんと止まるべきポイントで止まらないからだ。よって精密な調律が難しくなる上にピンのゆるみのせいでまわしすぎたりピンをこじてしまったりと弦に負担がかかって断線しやすいというリスクを伴うので、とても厄介なのである。

ジャンピングピン

もう一つ厄介なのが「ジャンピングピン」チューニングピンが軋って(穴の中で強くこすられている状態)飛躍的に回りすぎる状態である。原因は「穴の不良」。ピン板を製造する時に使う接着剤(膠など)がピン穴の中に残っていたり、油が入ってしまった、などだ。これも「音がすぐ狂う」「音が合わない」という症状がでる。ピンのスムーズな回転が得られないためズルピンの時同様、ポイントを得られず調律が大変やりにくい上に弦に負担がかかり断線しやすい。(ピョーンという音と共にいきなり下がってしまうというケースもある…)

どのようにして治すのか？

よく使われる手段は下記の通りである。

●ズルピンの場合

- ① ピンを打ち込んでピンとピン穴の接触面積を増やす。
- ② ピン穴とピンの間に木片や箔片をかませる。
- ③ 太いピンに交換する。
- ④ ピン穴を埋め木してドリルで穴を開け直す。

※軽度の場合にはピンタイトナーという補強液をピン周囲に注入する方法もある。

●ジャンピングピンの場合

- ① ピン穴の中の接着剤の残りカスを取り除き、ピンにチョークをぬり回転をよくする。

このようにどちらの症状も治す手段はあるのだが症状が出たなら即、修理を考えるべき。症状がどんどん進むので、決して放っておいてはならない。特にズルピンはピン板自体が原因となっているケースも多いので甘くみているとドッグ入りの大修理が必要になってしまう。

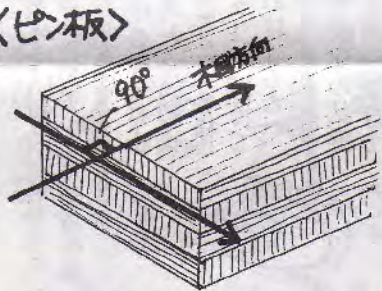
ピンとピン板

チューニングピンの役目は1本当たり80~90kgにもなる弦張力を、ヒッチピンと共に支え、ハンマーの操作によって音の高さを変えることである。

ピン板の役目はピンがゆるまないように保持することである。各々が優れた保持力を発揮するためには様々な工夫がなされているのだ。

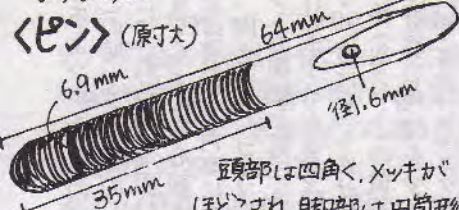
- ピン……
 - 極めて丈夫な硬鋼線材、クロムモリブデン鋼製。
 - 錆を防ぐため頭部にメッキするが、ゆるみを防ぐため脚部ネジにはしない。
 - うつむきを防ぐため約6度の角度を付けてピン板にねじ込む。
- ピン板…
 - 保持力の強い楓、ブナの薄板を重ねて合板構成とし、ピン穴同士が接近して開けられるため、ピンの打込みで割れたり回転によってゆるまないようにする。
 - 材質はよくよく乾燥させ強い圧力をかけて接着。(ズル・ジャンピングを防ぐため)
 - 強い張力でずれないようにフレーム合わせという工程を経てフレームに密着させる。

<ピン板>



厚さ10mm程の板(楓・ブナ)を木目方向を互いに直角にして接着。およそ5mmの厚板を作成する。40枚もの薄板を合わせた特別なものもある。

<ピン> (原寸大)



頭部は四角く、メッキが(ほど)まれ、脚部は円筒形でこまかくネジが切つてある。メッキはしない。

よみがえれ、美しきピアノたち!!

ピアノとしての誇りを取り戻せました

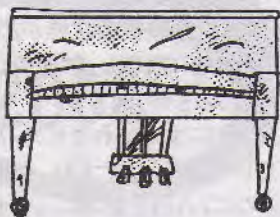
墨田区G.P様の体験談

ピアノとして生まれて20年、それまで私は弾いてもらってはいらぬもののヤニや手アカで塗面はコテコテ、金属部はサビが出て輝きが失せて蝶番などはギーギーと悲鳴をあげている始末でした。こんな自分の姿に絶望し、どんなに上手に弾かれても、それに応える気力さえ失い、もうピアノであるをやめてしまいたいとさえ思うどん底の日々が続きました。

そんなある日のこと、私の状況を見かねたご主人様がクリーニングを依頼してくれました。そればかりかキズ補修も依頼してくれたのです。隅々まで丁寧に、優しく磨いてもらってまるで生まれた当時の

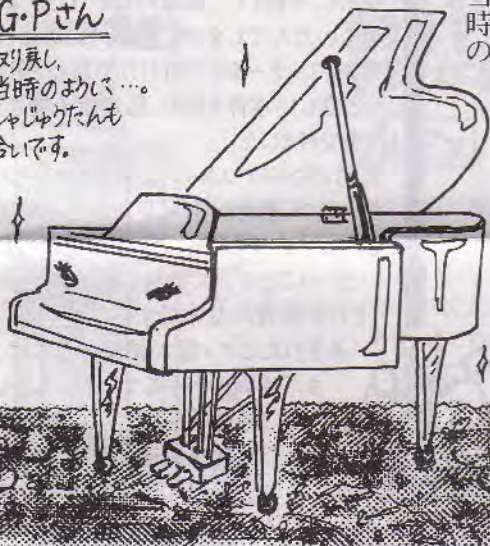
以前のG.Pさん

塗面の汚れやキズ、サビで大変お悩みでした。



現在のG.Pさん

輝きを取り戻し、生まれた当時のように...。高級パルシャックたんもよくお似合いです。



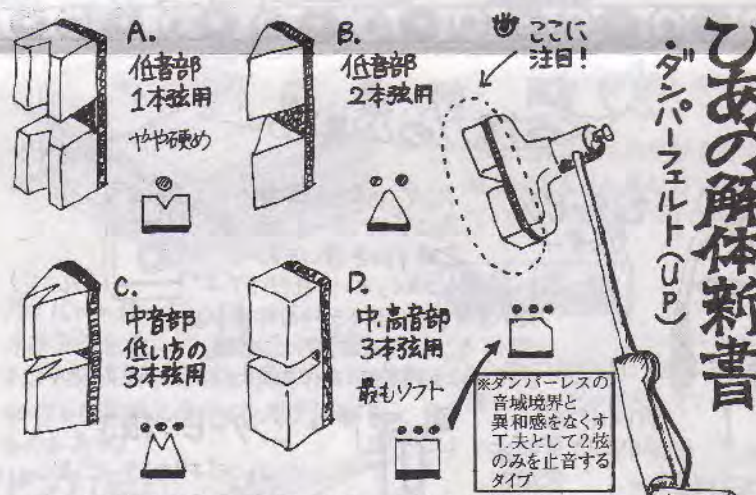
「姿がきれいなピアノと、音がきれいなピアノとを比べると、不思議ですね」とご主人様。

ように輝きを取り戻した自分の姿には正直言って本当におどろきでした。それに気にしていた、鍵盤ブタや前パネルのキズもなくなりました。ペダルや鍵穴、ネームや蝶番も、本当にピカピカで見せびらかしたいくらい光っているんですよ。きれいになった私のためにご主人様は新しいカバーを買ってくれました。でも、もうカバーなんて要りません。だって、私は美しく生まれ変わったのだから。もう、ピアノであることをやるなんて言いません。この輝きと正に、ピアノであることを誇りに生きて行きます!

音もキレイ、姿もキレイ

ピアノの美しいフォルムや塗装美をサビや汚れで台無しにいませんか？西部ピアノは独自の技法で音も、姿も美しくします

- ◎ピアノクリーニング ¥49,000~
 - ・装面などの汚れ落とし
 - ・金属部分(ペダル・丁番・鍵穴・文字など)サビ落とし 他
- ◎リペア(キズ補修) ¥5,000~
 - ・キズの程度により価格は変わります
 - ・鍵盤ブタ上面はキズの程度に応じお引き取り処理となります



ピアノの弦の太さは高音にむかって徐々に細くなり長さも短くなる。低音に使われる弦は銅線が巻つけられ太い。一音毎タイプの違う弦を確実に止音するため各々に応じたフェルトの形状・質で対応する。最高音部は弦長が短く、音の接続時間が短いのでダンパーを必要としない。従って最低音より65~70鍵分に使われている。

ピアノの解体新書

ダンパーフェルト(U.P)

パーツ編④-続

お客様Q&A

はっきり言って、「何年」というラインはありません。デジタルとか、電気ピアノは電化製品やから、10年もてばいいというカンジなのですが...。ピアノの場合は「お手入れ次第」! 年数が経てば外見は変化、中身も劣化していきます。放っておけば劣化が進んで寿命を縮めることになりますが、定期的に入入れをして、必要に応じ修理や部品交換などのまな対処をしていけば100年以上現役選手でいることも夢ではありませんよ!

ピアノの寿命って何年くらいですか?



がんばってます!

腹が減ってはイカはできぬ??



—西部ピアノNOW—

アクションはピアノの「命」

修理などでお預かりする以上は確実に、最良の状態にしてお渡しすること。また、決して法外な修理代を要求しないのが良識あるピアノ屋の常識です。

修理の内容や修理後の状態がどのようになるのかも明確に説明し、納得頂いた上でお預かりするのも当たり前。

しかしこの世には、あきれたピアノ屋がまだまだ生息しているようですね。1部分の修理をするのに7万円を要求し、しかも出来はひどく、不揃い。異常のなかったはずの部分もいたんでしまっていました。おまけにピアノクリーナーを6千円(!!)で買わされた、という悲しい事件を知り、私達は大変なショックを受けました。

異常のないアクションは全てのパーツが整然と並び、動きも揃い、見た目が大変美しいものです。つまり良い修理は見た目も美しいということが言えるのです。〈均一同形〉それが修理の基本です。

あきれたピアノ屋が絶滅するには、まだまだ時間がかかるでしょう。しかし、少しでも被害を減らすために良いピアノ屋を見極める厳しい目を全ての方にお持ち頂きますよう私達は願ってやみません。

● 高級グルメに通じる男

N氏は毎日お弁当で、ハッピーにランチ。しかしそれでは物足りず、出先でお店を探索する。求めるは当然「安くて旨い店」牛丼、ラーメンetc おかげで今は各地の安くて旨い店に精通。しかし、デートの時でも、その手の店しか思い浮かばないのが、悩みタネ。「安くて旨くて、おしゃれな店」の情報お持ちしております!

● チョコレートの天使

言辭律が終わって後片付けをしていると、そのお宅の3木らいのおじみちやまがやってきた。「おねえちゃん、これあげる!」手の平には3粒のマールチョコ。彼女の気持ちも女喜しかったが「おねえちゃん」と呼ばれたことがサイコーだったF氏であります。

● ホットコーヒー

当日は日曜気味でハナエジューズジュル言わせながら調律をしていた。そんなH氏の体調と気遣って下ったのだから、終了後には季節外れの熱々の飲み物をお持ち下さった。バスの時間も迫っているし、熱いししかも超苦手のコーヒーだったのだが、お客様のやさしい心遣いに身も心もホットになったH氏だった。



● 恐怖のランチ

和食屋はあまり、食事をしはいいのだが、その日は時間があたたためり大ランチ。お腹もふくれてご機嫌に出発〜♡! しかし、道路は大渋滞。その上おまかまで痛くなってきた。トイレはH氏が見付からず、死にぞろになりながら、運転を続けるH氏に...。その後、和食屋中は一切食事をしはなくなったH氏であった。



暖房ヒーターズン到来だねっっ室内と外との温度差でピアノは湿気が大嫌いです。

結露がおきてじめじめするからピアノのためにねっ!! 換気をしてねっ!!

調律道具箱

センターピン

センターピンカッター

ハンマの戻りの調整でフレージのセンターピンを交換する時使います。「切る」「抜く」という点だけでは他の道具でも代用できそうな印象がありますが、そこはさすがセンターピン専用、ピンをとらせる確実性は他の道具にはマネできません。

新しいピンを入れた時、突き出た余分な部分をカットする。

センターピン抜き

フレージよりセンターピンを抜き取るのに使う。

残念ですが毛抜きにはなりません。

足のツメ切りにも良さそう? (試したスタッフはいないと思います。)

発行人: (株)西部ピアノ
 本社工房・大阪市大正区鶴町3-18-30
 TEL 06-6554-7201
 東京工房・東京都墨田区菊川1丁目9-13
 TEL 03-5638-5660
 名古屋工房・徳島工房・福岡工房 他
 (0120) 752-777
 FreeDial